

令和8年度

牟岐小学校学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○体験活動やさまざまな工夫をにより、想像力を働かせ、言語活動の充実を図り、児童が思いや考えを表現できる授業の実践
○認め合い、伝え合い、学び合う、協働的な授業の実践

校長

竹島 稔

学力向上推進員

井治富恵

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

研究授業や授業研究会を通して、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的な学習のきまりを理解していて、漢字や計算など繰り返しの学習に意欲的に取り組むことができる。 ●長い文章を読み取ることや問題の題意を正確につかむことが難しく、身に付けた知識や技能を言語化したり、関連付けたりすることに課題がある。	・主張と根拠を明らかにして、自分の思いを伝えることができる。 ・体験を通して学んだことを言語化し、他の教科と関連付けることができる。	・5W1Hを明確にしてゴールを共有するとともに、結論・理由の構造を学ばせる。 ・読書量を増やすために、新聞の活用や学級の目標冊数を決めたり、電子書籍、おすすめの本を提示したりして読書に親しむようにする。 ・ペア学習等で理由と具体例を述べて発表したり書いたりすることを習慣化させる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○感じたことを言葉や絵で表現し、自分の考えや気づきを発表しようとする姿が見られる。 ●筋道を立てて根拠や理由、具体例を使って順序良く説明するのが苦手な子がいる。 ●想像力を働かせ、知識や情報と関連付けて考えを深めていくことに課題がある。	・想像力を働かせ、知識や情報を関連付けて考えを深めることができる。 ・大事なことを落とさず、伝えたいことの順序を決め、話すことや書くことができる。 ・理由や根拠を挙げた筋道の通った説明ができる。	・日々の授業でめあてにそったふりかえりの工夫をし、何がわかったかを端的に言えるようにする。 ・体験したことを大事だと思ったことや書きたいことを順序だてて書く。 ・結論を言って理由を言う等の言い方のモデルを示し、伝え方を工夫していく。 ・読書などで感じたことを読書手帳に書いていく。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○「やってみたい、知りたい、面白そう」と興味があることに対して意欲的に取り組む子が多い。 ●指示を待って行動することになれている児童がおり、自分から調べたり、学びを広げたりするといった主体性やねばり強く取り組む姿勢に課題がある。 ●進んで人前に出て発表しようとする意欲の高い児童がいる一方で、発表に苦手意識を持つ児童や誰かが言うだろうといった消極的な考えを持つ児童もいる。	・失敗を恐れずに見通しをもってねばり強く取り組むことができる。 ・自ら課題を見つけ、課題解決のために目標をもって、自分で調べたり、ペアやグループで話し合ったり、協働的に取り組むことができる。	・児童の興味・関心を引き出し、意欲につなげる単元計画や授業の導入を行う。 ・体験、振り返り、概念化、実践の体験学習のサイクルを通して、課題を見つけ解決する力を養う。 ・何を、なぜ、どのように学ぶのかが伝わるように授業のめあてを提示したり、ペアで伝え合ったりして、確認の方法を工夫する。 ・間違えたからこそ気付けたこと、新たな疑問をクラス全体で共有し、チャレンジできる学級作りをする。			